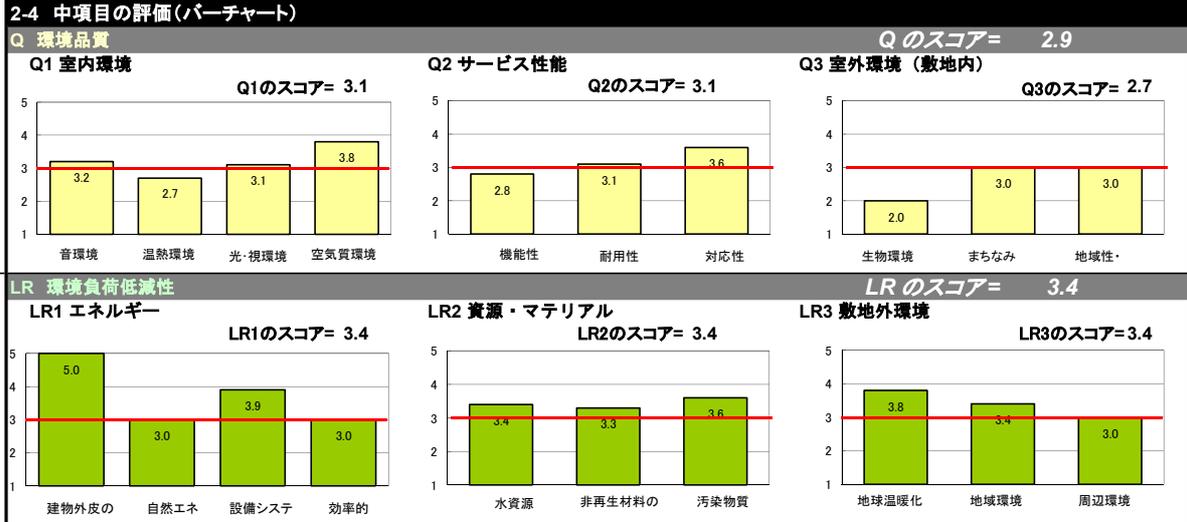
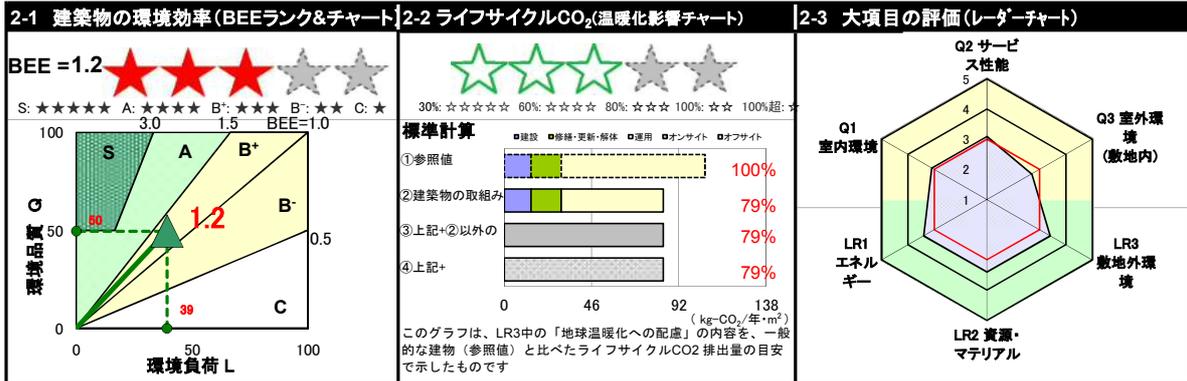


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	シロキ工業株式会社 豊川工場第三	階数	地上2F
建設地	愛知県豊川市大木町字山ノ奥27番3	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,912 時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年4月12日
敷地面積	13624.62(仮想敷地) m ²	作成者	日鉄エンジニアリング(株) 納庄 岬
建築面積	7,193 m ²	確認日	2019年4月25日
延床面積	7,539 m ²	確認者	日鉄エンジニアリング(株) 小瀬 透



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">44.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



3 対応性・更新性				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			工場階高:6.315	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.05	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39			-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm0.72	5.0	0.03			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm0.71	3.9	0.42			-	3.9
4 効率的運用				3.0	0.28			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			自動水栓/節水型便器を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	高速シートシャッター、タイルカーペット	4.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	事務室部にOAフロアを採用	4.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			吹付け硬質ウレタンフォームA種I(ノンフロン)使用	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2:3.8	3.8	0.33			-	3.8
2 地域環境への配慮				3.4	0.33			-	3.4
2.1 大気汚染防止			燃焼設備の使用無し	5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	
2 振動		独自		3.0	0.50			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

シロキ工業株式会社 豊川工場第三工場新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:44.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 シロキ工業株式会社 豊川

計画上の配慮事項	
総合	室内環境を整え居住者の快適性はもちろん、地域への配慮・貢献にも積極的に取り組んでいる。
Q1 室内環境	工場付随の事務室は音、温熱、光、空気質すべての環境において、防音、断熱、採光、化学汚染物質の不使用など優れた対策を行っている
Q2 サービス性能	執務スペースを広く、天高を高くとり快適性に配慮、また耐用性に優れた建材を採用することで信頼性にも配慮している
Q3 室外環境(敷地内)	緑化、水辺を採用することで敷地内の温熱環境を改善。 また、年に一度桜祭りを開催し敷地を社員や地域に開放するなど地域に貢献している。
LR1 エネルギー	熱負荷を抑制し冷暖房の必要性を軽減、またその機器も効率の良いものを採用し一次エネルギーの軽減にも努めている。
LR2 資源・マテリアル	エコ資材を採用し建築時における資源保全に取り組んでいる。また、節水機器を採用するなど運用後の資源保全にも意欲的に取り組んでいる。
LR3 敷地外環境	燃焼設備を使用しないことで大気汚染防止に貢献、また、見付面積を小さく・隣棟間隔指標を大きく持つことで周辺への風環境にも配慮している。
その他	